北の農職家

KITA NO NOUSYOKUKA

2017 3

No.243

高台　どうとう農場㈱　堂藤　勲さん一家

JAつべつ

特集
営農技術懇談会

ドイツにおけるマシーネンリングとトランスボーダーファーミング

農閑期を利用した営農技術懇談会が2月2日、JA会議室において組合員・関係機関60人が参加して開催されました。今回の懇談会メインの講演は、ミュンヘン工科大学よりハインツ・ベアンハルト教授を招き、「バイエルン州の農業」「マシーネンリングの展開」「トランスボーダーファーミング」の取組について講演頂きました。

JAつべつでは、「総合サポート事業」を推進中で、新たな営農支援システムを構築し、立ち上げるための研修として今回先進的な事例として取組まれているドイツ農業を学ぶため北農研事業として講演会を開催しました。

ミュンヘン工科大学教授
ハインツ・ベアンハルト氏
教授自身も140haの農地で農業を営んでいます。

マシネンリング（MR）という組織は、構成員各自が自己所有する機械を相互利用する「契約統合形態」であり、機械を共同利用する利用組合等の「所有統合形態」とは区別されます。組織自体機械を持たないで、機械作業の受委託仲介組織で、「誰でもでき、誰も拘束されない」組織です。

また、機械を伴わない労働力の派遣事業も行う組織で、病気や事故、休暇、研修や文化活動等で農作業または家事における働き手が欠け、労働力が必要なときヘルパーを斡旋し派遣するもので近年著しく増加している。

「協同についてのジョーク」

ドイツの農業を理解して頂くために3つのジョークを紹介いたします。

「ドイツ人は秩序とルールを愛する。また、大部分は利益よりも課題を論議することを好みます」もう一つ、農家の人達の協力について、「三人が協力して農業を行う場合、二人を殺す必要があります（二人をダメにしてしまう）」。

協力についてもう一つは、「協力？そんなことはした事がない」。こういう冗談を聴けば「協力する」また「トランスボーダーファーミング」についての課題は少し想像いただけると思います。

バイエルン州の農業「有機農家8000戸25万ha」

バイエルン州には10万5千戸の農家があります。平均経営面積は30ha、専業農家は41%、59%は兼業農家です。農家の4分の3は家畜を飼養しており この内、33670戸は乳牛を飼っており、5500戸は養豚農家です。バイエルン州はドイツにおいて酪農が盛んな地域で、有機農家は8000戸あり、その面積は25万haあります。

1958年エリック・ガイアースベルーガ教授がバイエルン州で最初のマシネンリング（MR）を開始しました。教授は農業で博士号を取得し、その後ラジオ・テレビでジャーナリストとして活躍され全国にMRを広げていきました。ドイツ全土には現在240の

MRがあり、小規模農家が多いドイツの南部に多くあります。

バイエルン州は南部にあたり、72のMRがあり85・3％に当る95479戸の農家が参画し、中でも積極的に参加しているのは64％です。64％の内33％が委託者として参加し、25％が委託と受託両方しており、残り6％が受託専門としております。MR参加者の30％は緊急事態が起きた時のために予防対策として加盟しています。MR参加者総面積は278万ha。

2013年MRの取引高557・8億円

機械作業と作業支援にたいする取引高は2013年557・8億円（1€122・8円換算）、これは農地1ha換算で15000円、メンバー1人あたりに換算すると717千円でした。MRの作業割合で見ると27・7％が飼料や麦稈収穫、15・1％は穀物収穫、14・8％はトラクター作業や運送作業で、13・3％が作業支援でした。

トランスボーダーファーミングの視点

「トランスボーダーファーミング」とは、隣接する農地で同じ作物作る場合、境界のところでロスがでてきます。農家それぞれに移動するので作業ロスが発生し、それはコスト増として現れます。

この50年間でこの状況を変えようと動きが出てきました。一つは、政府による土地の集約がありました。しかし、これには不動産を動かすためのコストが多くかかります。

農家気質は、日本もドイツも同じで「自分の畑が一番良い」と思っており、集約した後でも「自分は良いい土地がほしい」と思い、結局まとまらず元に戻ってしまいます。

もう一つの方法として自主的な集約方法がありましたが、土地所有者の合意が必要でまとまらず元に戻りました。

新しい方法は、「近くの圃場同士で同じ作物を作る」と言う方法です。そうすると、境界部分のロスが減ります。しかし、作業としては同じ作業をするために大きくは変わりません。

そこで、「共同管理をする」方法に変えます。そのことで、農家全員の作業が減少し利点が生まれます。

「境界15mで20％近く収量が増加します」作業コストも大きな変化が生まれます。小麦1haだと労働時間10・8時間、機械コスト54千円／ha。これが40haになると労働時間7・4時間、機械コスト43・5千円／haとなり大幅なコスト減となりました。これはドイツの計算ですが日本でも同じだと思います。しかも大口なので購買価格も販売価格も有利になります。

組織はどのようなものか

農家の方が管理団体を作ります。すべての作業が衛星を使った作業となり、全ての記録が残されます。

各農家は出役した分だけの支払いを組織から受け取ります。この組織が種子や肥料、資材を購入し、土地に使用した分を後で農家に請求します。各農家は所有する面積に応じて管理料を支払います。収量と品質データーは各々圃場に応じて把握され、それに応じた売上高を受け取ります。

また、まとめて売る事も可能です。データーを集めることはとても重要な事で、データーを集めることで良い土地、悪い土地の判断となります。

課題

「同じ地域の農家は一緒に働かなければなりません」一戸でも「協力できない」と言えばそれまでで、終わりとなります。

全ての農家がこの考え方に賛同しなければなりません。全ての参加者が自分の決定権を放棄して従わなければなりません。両親・家族も同意しなければなりません。

ドイツでは、農家同士で協力することについて、たとえば3人で作業をして家に帰ると妻から「あなたは、グループの中の作業員なの？リーダーなの？」と聞かれます。奥さんはグループに一員ではありませんが、グループに影響を与えます。だから、両親も家族も同意する必要があります。

大きな組織になると両親や奥様を対象にしたミーティングが行われます。

「組織はどういうものか、協力はどういうものか」第三者が説明します。

組織としての課題は「いつ、どこで、誰が、何をするか、誰が決めるのか？」という問題です。例として、「雨が続いて収穫条件が悪く作物が劣化して行くとき、どのように作業バランスを取るのか」と言う課題があります。

また、支払いに関して「全てを企画し、まとめた人にいくら払うのか」「圃場が奥地や不利な条件にある場合のバランスをどう図るか」また、施肥がうまい人、防除がうまい人に皆が作業をお願いした結果、作物が多く取れて皆が恩恵を受けます。その場合割増しで支払いを行います。

このように様々な課題があり、その都度話し合いをしなければならない事を理解いただけたと思います。

これらの課題は以前からみると些細な事です。個人の自尊心からするとかなりなストレスと思います。「トランスボーダーファーミング」は経済的な部分は簡単な事で、心の部分が大きく重要な事です。しかし、協同で働く事は良い事です。ご清聴ありがとうございました。

平成29年度 組合員学習会 開催

本年度の組合員学習会が2月23日JA会議室において組合員・各関係機関約40人が参加し開催されました。

学習会の講演はJAつべつ顧問アドバイザーである北海道大学の東山寛准教授が「TPPの行方」について、同じく北海道大学の小林国之准教授より「JA改革と農協の進むべき道」について講演頂きました。

北海道大学大学院農学研究院准教授
JAつべつ顧問アドバイザー
東山　寛　氏

「日米FTA経由、TPP行き（ルート変更）」

現在トランプ大統領はNTFTA（北米自由貿易協定）の再交渉、TPPからの離脱表明、中国を為替操作国に指定、シェールガス・シェールオイルを含むアメリカのエネルギー資源の生産制限の解除など「貿易」「中国」「環境」の3つの政策に取り組んでおります。今後、トランプ大統領就任に就き世界各国から注目される事になるでしょう。

「日米FTAの真意 ～TPPの生き残り戦略」

TPP離脱署名したアメリカは「日米FTA（二国間自由貿易協定）」の推進を表明しましたが、アメリカ議会共和党はTPPをあきらめてはおりません。

しかし今のままの形でTPPは難しいためトランプ大統領に支持されるプランを構想する考えがあり、「日米間でTPPを成立させて、他国の参加を促す」というプランです。

議会共和党ハッチ上院財政院長（ユタ州選出）は「TPPを日米FTAという限定版のものにすることが、トランプ次期大統領の支持を得られ、TPPが生き残る唯一の道だ」という構想です。

TPPの離脱を署名したアメリカですが、日米FTAの協定の延長線には「TPPにつながる可能性があるのかもしれません。

農政改革と経営安定対策 「収入保険制度とは?」

平成30年秋より加入申請が始まり、主体はNOSAI（農業災害補償制度）が執り行う制度であります。制度内容は過去5年間の収入の平均を算出し「基準収入」を設定します。

当年の収入が減少した場合、9割を上限として支払う内容。保険料は2%、国庫補助1%であり、NOSAI（畑作共済等）に加入するか収入保険制度にするかの選択の必要が出てきます。

「世間の目からみる農協」

北海道大学生にアンケートを実施し農協に対しての素朴な意見がありました。

「農協に関して深い知識はないが、何となく農協にたいして良くないイメージがある。」このような目線で見られている農協。

北海道大学大学院農学研究院准教授
小林　国之　氏

なぜこのようなイメージがあるのか、それは協同組合の理念である「合理的」に対し「自由競争・自己責任」という概念が強くなっている世間の価値観の違いがあります。

「本音を言える意思の決定が重要」

昨年、農協法が改正され組合の目的に「事業を行うに当たっては農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」「事業において事業の的確な遂行により高い収益性を実現し事業から生じた収益をもって経営の健全性を確保しつつ、投資又は事業利用配当充てるよう努める」という文面が新たに改定されました。

本来の協同組合は自分たちが事業を利用するために作った組織であり所有者でもあります。

しかし、改正により農業競争力の向上といった農産物を直接販売するルートの拡大、農業者との食品製造業者等の連携促進と利益を追求した現状になりつつあります。

農業者から農協への期待が高まってきており、農協のあり方を見直していかなければいけません。

「農協がやるべきは鍋パーティー」

今後の農協は、世代が代わり様々な選択の自由がある状況のなかで職員と組合員の距離感をいかに縮めていくか、またお互いの本音を言える意思決定のプロセスの構築が重要である。

例を挙げると「みんなで食材（地域の本音）を持ち寄って役割（組合員、農協が出来る事）を決めて全員で鍋を作る（地域の農業・農協を考える）パーティーをしましょう」

今一度自分たちが地域のため、農業のため考えあう時期にきているのではないでしょうか。

トピックス

オホーツクの流氷 応募300人中 30名プレゼント

農業と漁業連携　玉葱・馬鈴薯購入で「オホーツク流氷プレゼント」に多数応募

JAつべつと東都生協では今年も2016年産玉葱・馬鈴薯購入者に「オホーツク流氷プレゼント」企画を行っており、このほどJAつべつで抽選会を行い厳正な抽選の結果応募総数300名の中から玉葱・馬鈴薯各それぞれ15名、合計30名に流氷が贈られました。

この企画は、漁業者と農業者の網走川流域を中心に交流が始まった事を機会に、2015年漁業者から網走川流域の自然を守り流域の環境負荷低減に努める農業者に対し漁師さんからの「応援証」を送る事業が始まり、初年度オーガニック牛乳を生産する津別町有機酪農研究会と野菜を中心に耕作する津別町特別栽培農産物協議会が受賞しました。

受賞を受けた農家が中心となり、特別栽培された玉葱と馬鈴薯に漁業者の「応援証」シールを張って東都生協キャンペーンとして販売。さらに購入者プレゼントそして昨年から「オホーツク流氷プレゼント」を企画。網走漁業協同組合の協力を頂き、漂着した流氷200kg回収し、2月24日網走漁協吉田裕次参事より特栽協議会石川剛会長が引き渡しを受け、28日には山下邦昭組合長と石川剛会長が厳正な抽選を行い、当選者に発泡スチロールに入れられた流氷が当選者に贈られました。

～39歳までの皆様へ

農業者年金の政策支援加入で将来の安心を！

政策支援

農業者の担い手には、手厚い政策支援（保険料の国庫補助）があります。

国民年金第１号被保険者等の農業者年金への加入要件に加え、

❶39歳までに加入

❷農業所得が900万円以下

❸認定農業者で青色申告者等（右表）を満たせば受けられます。

●**政策支援を受けられる期間**は最長20年間です。
（35歳以上の支援は最長で10年間です。）

●**国庫補助を受けている間の保険料**は月額２万円（国庫補助額を含む）で固定され、加入者が負担する保険料は、２万円から国庫補助額を差し引いた額になります。

●**国庫補助を受けられる期間を過ぎた場合**は通常の保険料（月額２万円～６万７千円の間で千円単位で選べ、変更も自由です。）になります。

保険料の国庫補助対象者と補助額

区分	必要な条件	国庫補助額 35歳未満	国庫補助額 35歳以上
1	認定農業者で青色申告者	10,000円（5割）	6,000円（3割）
2	認定就農者で青色申告者	10,000円（5割）	6,000円（3割）
3	区分１又は、２の者と家族経営協定を締結し経営に参画している配偶者または後継者	10,000円（5割）	6,000円（3割）
4	認定農業者または青色申告者のいずれか一方を満たす者で、３年以内に両方を満たすことを約束した者	6,000円（3割）	4,000円（2割）
5	35歳まで（25歳未満の場合は10年以内）に区分１の者となることを約束した後継者	6,000円（3割）	－

※国庫補助額は月額保険料月額２万円で固定に対する補助額（割合）です。
※区分３及び区分５の「後継者」は経営主の直系卑属である必要があります。
※35歳未満で加入した者は、35歳から自動的に35歳以上の額に変更されます。
※区分１～５のそれぞれの要件に該当しなくなった場合、他の区分（国庫補助額が減額になることがあります。）又は通常の保険料への変更が必要です。

ＪＡ情報館

新役員体制決定
新部長に金一善紀氏を選出

JAつべつ青年部（鹿中徳三郎部長）は、2月9日JA会議室に部員30名が参加して第38回定期総会を開催しました。現在部員数は53名が加入しており、28年度事業では食育活動として加工南瓜を子供たちと共に作り、収穫して調理を行うなどの指導を始め、オホーツク農業祭、スポーツ交流、町の委託を受けて町道草刈を行う一方、広報活動として広報誌作成やFacebookやYouTubeを使い多彩な活動を行っています。

総会では、29年度方針を樹立すると共に新役員体制を確立しました。記念講演として中央会北見支所太田慎太郎氏を招き「農協改革」について講義が行われた。

＜新役体制＞

△部　長：金一　善紀　　△副部長：幾島　大智・河本　　務
△書記長：上林　直人
△理　事：千葉　充彦・市場　達也・千葉　佑太・下向　優希
　　柏葉　宏樹
△監　事：丸尾　裕司・竹中　大輔

第62回　ＪＡ女性部定期総会
新部長に迫田彩由美さんを選出

JA女性部（佐野多希子部長）は、２月21日中央公民館において部員と来賓15名が参加して第62回定期総会を開催しました。佐野部長は一年を振り返り「昨年は十勝方面に大きな被害をもたらす台風に見舞われ、この地域でも苦労を強いられる年となりました。しかし、農業者にはめげている暇はありません。皆の食をあずかり『安全・安心な農産物を作って行こう』と言う意気込みで新たな年に向けて励んでいきましょう」と挨拶。総会は、平成28年総括と29年度方針全て決定され、新役員体制が確立されました。

△部　長：迫田彩由美　　△副部長：金一真由美・細川　タケ
△事務局長兼会計：金田美喜恵　　△監　事：仲田　　瞳

青年部・女性部・フレミズ、ＪＡ常勤理事と意見交換会

JA青年部（鹿中徳三郎部長）、JA女性部（佐野多希子部長）、フレッシュ・ミズ（河本玲奈会長）各三役は、平成29年度JAの事業計画樹立にあたりJA常勤理事（山下組合長・宮川常務）、岡本参事、三部長を交え１月30日JA会議室において意見交換会開催しました。鹿中部長からは、会員が増加する見込みと４ケ町村交流会、30年度道外研修を計画していること。佐野部長からは、活動に対して助成金配慮願や他町村女性部交流計画を披露した。共通した活動として「網走川流域の会ゴミ拾い」を各営農組合の参加を求めていく事などJA活動に反映する事が確認されました。

ふるさと塾閉校式 農業担い手に期待

就農して3年以内の若い生産者を対象に開校した「ふるさと塾」は、このほど2年間のカリキュラムが終了し、関係者が集まり閉校式が2月15日JA会議室で行われました。この塾は、2014年JAつべつが町や普及センターと農業士会の協力を元に基礎的な農業経営や栽培技術を習得してもらい、若者の人材育成することを目的に研修計画が作られました。

受講したのは、農業後継者、農業法人職員、JA職員、役場農政職員など16名。栽培管理技術や生育診断と農薬使用方法、酪農畜産技術、土づくりなど生産に係る講義を実践的指導が実施されました。また、中央会やホクレンからは「JAグループの役割・共計の仕組・流通実態・販売戦略」など講義を受ける他、北大での講義含め延べ13日間実施された。閉校にあたり塾長山下組合長からは、指導に当たられた関係機関にお礼を述べると共に、2年間の研修を通じて得た知識や仲間作りを元に、将来を担う経営者となる事に期待したいと激励の式辞を述べた。

ＪＡ情報館

玉葱振興会総会
「過去最高の収量確保」

玉葱振興会（乃村浩継会長）は、２月16日JA会議室において第45回通常総会を開催しました。総会には会員と関係者40名が参加。乃村浩継会長は28年産玉葱の状況についてふれ、「移植直後の降雪に見舞われ変形玉の懸念があったものの、その後の生育は順調に経過しました。８月に入り三度の台風に見舞われましたが、昨年史上２番目の収量を更に上回り、津別町平均で５．５基は過去最高記録となりました。販売状況では、特に２Lサイズが40％を越える状態が続き苦戦を強いられる一面もありますが、ホクレン・広域連と連携しながら販売努力をしていきたい。29年度の取組として『８月超早出し出荷』を計画しており協力頂きたい」と挨拶。総会は、丸尾裕司氏を議長に迎え提出議案は原案通り可決決定されました。

第４０回 津別町肉牛振興会定期総会
「農産物を上回る販売額確保」

津別町肉牛振興会（迫田浩司会長）は、会員20名が参加して２月３日JA会議室において第40回定期総会を開催しました。迫田会長は、40周年を迎え先人の努力に感謝を述べると共に、この一年を振り返り「空前の売り上げを伸ばした年であったこと。その結果、畜産部門がJA販売額で農産部門を上回る結果を出す事となりました。

個体販売単価の異常な高騰があった一面と、肥育では仕入額高騰で経営の圧迫を受けている一面もあります。今後、農業情勢が大きく変化しようとする中で会員と共に議論しながら進めて行きたい」と挨拶。総会は、佐藤多一町長、宮川常務の祝辞を頂きH28年度事業報告とH29年度事業方針を全体で決定しました。

乳質改善共励会
㈱山田牧場最優秀賞に

平成28年度の津別町乳質改善共励会が酪農振興会員と町・普及センターなど関係者が参加して、２月16日JA会議室において開催されました。この表彰は一年間の体細胞数平均と生菌数平均でポイントを与え、順位が競われます。会を代表して大矢根督会長は「津別町の乳質は全道108カ所の参加町村の中で、基準値以下100％を達成しています。

表彰を受けた㈱山田牧場は、365日一日たりとも気を抜かず管理した結果である」と高く評価し、表彰状と記念品を贈られました。表彰式の後には、為国浩貴氏による「乳房炎防除対策」の講演が行われました。

△最優秀賞：(株)山田牧場
△優 秀 賞：石橋　利明
△努 力 賞：金子　知央・(有)セイランドファーム

第一回理事会報告
開催日 2月24日

報告事項
①常任委員会の顛末について
②コンプライアンス・プログラムの実践状況について
③内部監査計画に基づく実践状況について
④平成28年度経営安定期点検の実施状況について
⑤一体的な自動車損害調査体制にかかる協定書の締結について
⑥役員推薦会議の顛末について
⑦子会社㈲だいちの運営状況について
⑧各作物の状況及び生産者団体の活動状況について
⑨各課報告事項

付議事項
議案第１号
平成29年度特定組合員の認定・解除について
議案第２号
平成28年度貸借対照表・損益計算書・余剰金処分(案)の承認について
議案第３号
平成29年度事業計画について
議案第４号
通常総会の開催について
議案第５号
平成29年度コンプライアンス・プログラムの設定について
議案第６号
平成29年度経営定期点検実施計画について
議案第７号
理事会推薦役員候補者の選考について

協議事項
①地区懇談会提案事項について
②北海道畑作物総合振興対策確立等に関する調査について

農業者と漁業者手を組み
農地崩落対策プロジェクトチーム結成へ始動

近年、自然災害が本道を襲い大きな被害をもたらしています。オホーツク管内でもここ12年の間に11回大きな農地崩落が起きており、被害農家は農地の流失に始まり、その土砂は網走川流域の河川から流れ込み漁業にも大きな被害をもたらしています。

２０１１年漁業者の呼びかけから始まった運動は、農業者と漁業者が「網走川流域農業・漁業連携推進協議会」を設立して、農業者と漁業者の持続的発展に向けた「共同宣言」を行いました。更に２０１５年には網走川流域、一市三町の農協と漁協、行政を含めた「網走川流域の会」を発足させてきました。

今回の「農地崩落対策プロジェクトチーム結成」へ参加したのは、「網走川流域の会」に参加する網走漁協・西網走漁協とＪＡつべつ・ＪＡびほろ・ＪＡめまんべつ・ＪＡオホーツク網走、ＪＡ中央会北見支所、北海道ぎょれん。オブザーバーとしてオホーツク総合振興局、網走市、大空町、美幌町、津別町。

結成の目的は、降雨の起因する農地の崩落により土砂が河川や湖沼へ流入し漁業への被害が発生している事。農地崩落の復旧には膨大な費用が発生するが、農業者個々には対応する事が非常に困難な状況となっています。

農地災害復旧事業の制度自体は存在するものの、その要件に合致しない事例も多くあり対策が充分に講じられていない事態となっている。現状の対応は、市町村独自の予算で行っており根本的な解決には程遠い状況が続いており、結果的に耕作放棄されている実情となっており、放置する事で更に被害の発生が予想されている。

プロジェクトチーム当面の取組は、農業者と漁業者が認識を共有する為に、網走川流域の崩落現場視察を合同で行い、実態の把握を進め、改修における具体的な方法を行政と連携して検討し、関係先に対する要請活動などを行うこととした。プロジェクトの座長として新谷哲章（網走漁協理事）、副座長に有岡敏也（ＪＡつべつ）を選出した。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

平成29年1月、北海学園大学経済学部と北海道大学農学部において、学生向け授業の一環として「北海道農業の概要と、それを支えるJAグループの役割」について講義を行いました。

「北海道農業が日本の食を支えていることを知り、道民として誇りを持った」「JAグループが農畜産物の安定供給だけでなく、インフラ提供等様々な役割を果たしていると知ることができた」等の感想をいただき、北海道農業・JAへの理解を深めてもらうことができました。

今後も「サポーター550万人づくり」に向けた情報発信を進めて参ります。

JA北海道信連

JAバンク北海道では、地域貢献活動の一環として、AEDの寄贈を平成21年度より実施しており、今年度は、JR各駅に7台、大空町社会福祉協議会に1台の計8台を寄贈しました。

累計寄贈数は、今年度分を含めて、43先65台となり、救命活動や救命講習等に活用されています。

写真：JR滝川駅
JAたきかわより贈呈→

ホクレン

ホクレンパールライス部では「ゆめぴりかごはん」と「北海道こめ油」に次ぐ米関連商品として、日本食品製造合資会社（札幌市）と共同開発により、1月から「ゆめぴりかの乾燥玄米入りグラノーラ（230g入り）」の発売を開始しました。朝食の新しいメニューとして牛乳や豆乳をかけて食べるのがお勧め。

道内Aコープやホクレンショップ等パールライス取扱店で販売しています。（取り扱いのない店舗もあります）

JA共済連北海道

「第68回さっぽろ雪まつり」において、平成28年度JA共済 全道小・中学生交通安全ポスターコンクールの入賞作品64点を展示しました。

260万人を超える来場者数となった「さっぽろ雪まつり」で、JA共済連北海道の活動と交通安全への思いを知っていただくことができました。

今後も道内のみならず、全国や海外からの観光客の方々にも交通安全の大切さを伝え、事故防止に繋げていきます。

JA北海道厚生連

【旭川厚生病院で「土曜ドック」を！】

旭川厚生病院では、男性の方を対象として、隔週土曜日に人間ドックを実施しています。午前中に全ての検査が終了し、検査結果は受診日から1週間ほどでお届けします。前立腺がんや肺ドックなどのオプション検査も可能です。

随時予約を受け付けておりますのでお電話でお問い合わせください。

※完全予約制

（TEL0166-33-7171　（内）2146・2198）

年金友の会情報

第３０回 定期総会開催

年金友の会（下川敏章会長）は、ニュー阿寒ホテルにおいて会員64名を集めて２月16日定期総会を開催いたしました。

平成29年度事業計画

■道外旅行

東北・道南めぐり
旅行日程：11月、３泊４日

■囲碁大会

１回：３月23日、２回：５月23日
３回：７月18日、４回：９月19日
５回：11月16日、６回：１月18日

■ゲートボール大会

１回：５月２日、２回：６月６日
３回：７月４日、４回：８月１日
５回：９月５日

■パークゴルフ大会

１回：５月18日、２回：６月15日
３回：７月20日、４回：８月17日
５回：９月26日・27日

新車を買うなら JAで!

新型 STINGRAY WAGONR HYBRID マイルドハイブリッド搭載

※photo：ワゴンRスティングレー HYBRID T

新型 WAGONR HYBRID マイルドハイブリッド搭載

※photo：ワゴンR HYBID FZ

■ワゴンR スティングレー HYBRID T 4WD CVT 1,779,840円(税込)～
■ワゴンR スティングレー L 4WD CVT 1,414,800円(税込)～
■ワゴンR HYBRID FZ 4WD CVT 1,470,960円(税込)～
■ワゴンR FA 4WD CVT 1,202,040円(税込)～

※掲載の車両価格には登録諸費用は含まれておりません。

JAグループ 春の新車フェア 2017年3月31日ご契約分まで

TOYOTA × SUZUKI × SUBARU × MITSUBISHI MOTORS

上記4メーカーの新車ご購入でいずれか1つプレゼント!!

① ホクレンSSポイントカード 30,000pt進呈!
② 農協観光 旅行券3万円分
③ ホクレンカタログギフト JCB商品券(15,000円分)＋セレクト・フォー・ユー(10,000円相当)
④ スウィッツスポート 折りたたみ自転車
⑤ 健康管理セット 血圧計＋体組成計
⑥ ケルヒャー 高圧洗浄機 K3サイレント
⑦ ダイソン ハンディクリーナー
⑧ 緊急防災セット 防災セット＋非常食＋救急パック

軽トラック新車ご購入の方は スタッドレスタイヤ4本(ホイール付き)プレゼント! さらに ホクレン エンジンオイルプレゼント!

JA女性部

「我家の味」試食会

出品数 84点

西網走漁協女性部が参加

JAつべつ女性部（佐野多希子部長）主催による「我が家の味」試食会が多目的施設さんさん館を会場に女性部会員と共にＪＡ職員や役場職員、一般客約80人が参加して２月７日開催された。

部員が日頃自宅で作っているご飯やおかず、漬け物、デザートなどの手作り料理を持ち寄り食べて頂く催しで、コーナーを設け会場いっぱいに色とりどりに並べられた品数は84品になった。津別産小麦「きたほなみ」を加工した手作りうどんや、高齢部会のひまわり会からは「呉汁」も用意された。

この試食会には、網走川流域の連携から女性部による「６次化」の検討も進められており、素材となる料理の開発も兼ねており、網走名産ホタテを使用したご飯やワカサギ料理が西網走漁業協同組合女性部員８名により出品されていました。

一般参加者からのアンケートでは、「この料理の中から地元産の商品が開発され地産地消につながればればいい」「農家の嫁バイキング1,500円というビジネスになりそう」と言った意見が寄せられていました。

品数の多さと美味しく作られた料理に驚くと共にレシピを確認するなど町民との交流も図られていた。この試食会では一般参加者から参加費として頂いた料金全額が熊本地震義援金として熊本市に贈られた。

第６回 つべつアイスキャンドル点灯まつり

流氷が接岸し、一段と寒さが厳しくなる２月４日、さんさん館前の広場では町民が手作りしたアイスキャンドルが実行委員手によって次々と並べられていきます。今年の参加団体は34団体、アイスキャンドルは昨年より多く610個ほど作られました。夕方４時から点灯セレモニーが開催され、円形のメインキャンドルに水上隆実行委員長とまる太君が点灯して開会を宣言。

野外では、屋台村が並び、たき火を囲みながら㈱希来里ファームのジャガイモの無料提供が行われ、JA青年部は実行委員会として酒類の販売に協力。野外イベントでは、子供たちが楽しみにしているまる太くんと○×クイズや、雪山滑り台では列を作り滑るたびに歓声が沸いていました。

さんさん館内では、キャンドルナイトコンサートが行われ、似顔絵パフォーマンスショーや楽器演奏、ゴスペルの歌やバンド演奏が披露され、キャンドルライトを背にしたこの時期ならではの演奏に満たされていました。